

1. 科目名(単位数)	子どもと造形 (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2422
2. 授業担当教員	井戸川 敦		SCOT2422
		SJMP2147	
4. 授業形態	演習、講義	5. 開講学期	
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本授業では、領域「表現」のなかの「造形」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。 ① 乳幼児の造形による表現の姿や、その発達を理解する。 ② 造形による様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。		
8. 学習目標	1) 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2) 造形を生成する過程について理解している。 3) 乳幼児の素朴な造形を通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。 4) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 5) 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。 6) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 7) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 8) 様々な造形による表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	1) 毎時の授業において製作する作品を提出課題とする。 2) 製作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 3) 鑑賞として、授業における取り組みの成果の発表を行う時間を設ける。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】横英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 また授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 【教材】 製作道具・材料についてはオリエンテーション時や事前の授業で指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1.子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がついたか。 2.子どもの造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。 3.子どもの豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。 ○評定の方法 授業への取り組み、製作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1.授業への積極的参加 総合点の 30% 2.日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の 20% 3.製作や鑑賞活動の成果（課題等） 総合点の 30% 4.作品発表、レポート等 総合点の 20%		
12. 受講生への メッセージ	造形指導者として子どもの柔軟な感性に対応していくためには、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要である。本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解するとともに、造形の基礎技能の習得を図る。また、造形活動で用いられる基本的用具（絵の具・クレヨン等）の扱い方と、材料の特性を活かした多様な表現、また安全指導などについて学んでいく。幼・保・小学校の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深めていく。 【注意事項】 1. 造形活動で用いられる様々な材料・用具（絵の具・クレヨン・画用紙・粘土等）は、各自が準備すること。授業内で随時伝えていく。 2. 絵の具などを使用するため、汚れてもよい服装で出席することが望ましい。		
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等（メールなどで事前にご連絡ください）		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の発想・構想について	事前学習	教科書を一通り確認しておく。 図画工作や美術の授業を振り返り、印象深かった出来事について考える。またそれを踏まえ、自身が保育者になった際、子どもたちが豊かに、安心して製作できる環境づくりを考える。
		事後学習	自身のこれまでの製作活動を振り返り、考えていたこと、感じていたことをまとめる。
第2回	◇ 表現の基礎 素材の特徴と組み合わせについて （講義＋演習）	事前学習	教科書 pp.9-11 を読む。 これまでの描画経験を振り返り、描画の基本について考える。基本的な道具の使用法を復習し、今後表現するための基盤とする。
		事後学習	授業で学んだ内容を振り返り、各自で準備

			たモチーフを描いてみる。
第3回	◇ モダンテクニックによる表現 I 「デカルコマニー・糸引き絵・フロッタージュ」 (講義+演習)	事前学習	絵の具を用いた製作活動の経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品製作に向けて、自分らしい色彩や表現について考え、構想をまとめる。
		事後学習	デカルコマニー・糸引き絵・フロッタージュによる製作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。また上記の技法を振り返り記録する。
第4回	◇ モダンテクニックによる表現 II 「スパッタリング・ドリップング・吹き絵」 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 11-12 を読む。 筆を用いない描画経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品製作に向けて、モチーフや資料を収集する。
		事後学習	スパッタリング・ドリップング・吹き絵による製作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本について調べる。また上記の技法を振り返り記録する。
第5回	◇ モダンテクニックによる表現 III 「クレヨンステンシル・シャボン写し」 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 13-14 を読む。 作品製作に向けて、身の回りにある自然物の有機的な形態に着目し、構想を練る。またクレヨンを用いた製作活動の経験を振り返る。
		事後学習	クレヨンステンシル・シャボン写しによる製作活動を振り返り、技法と表現の関係について考える。また上記の技法を振り返り記録する。
第6回	◇ 紙版画 I 紙を素材とした版画表現の研究 (講義+演習)	事前学習	紙版画を作るにあたって、その材料や参考作品、また造形活動としての利用法についてアイデアを巡らす。また実際に作るにあたっての、安全面での考慮や製作方法について調べる。
		事後学習	これまでの版画による自身の製作活動を振り返る。また関連する様々な版画技法について調べ、紙版画の技法を振り返り記録する。
第7回	◇ 紙版画 II 紙を素材とした版画表現の実践 (演習)	事前学習	教科書 pp. 105-106 を読む。 これまでの版画表現を振り返り、これまでの自身の作品に関しての、色や形といった造形要素について考える。
		事後学習	様々な版画表現について調べる。そして、子どもの造形活動における版画表現の応用を考え、自身でも製作してみる。 これまでの作品を、各自スケッチブックにまとめる。
第8回	◇ ポップアップカードによる表現 I 「パクパクカード・平行ボックスカード」 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 71-72 を読む。 ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、製作に使用できそうなイメージを収集する。また実際の保育現場での、造形活動の構想を練る。
		事後学習	ポップアップカードについて復習する。様々なポップアップカードのアイデアを書き出し、同様の技法が用いられた絵本について調べる。また今回の製作活動を振り返り記録する。
第9回	ポップアップカードによる表現 II 「ボックスカード」 (講義+演習)	事前学習	ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、製作に使用できそうなイメージを収集する。また実際の現場での使用アイデアの構想を練る。
		事後学習	ポップアップカードについて復習する。様々なポップアップカードのアイデアを書き出し、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。またそれらのアイデアを使用し、作品を製作する。
第10回	◇ 工作表現 I 「廃材を使った造形表現」 題材の設定・製作の準備・構想 (講義+演習)	事前学習	造形表現に用いられる素材の種類を挙げ、それぞれの素材に対するイメージをまとめる。 立体作品の製作に向けて、各自の題材に関する素材を収集する。
		事後学習	実際に製作する立体作品についての製作方

			法やデザイン案をまとめる。
第 1 1 回	◇ 工作表現 II 「廃材を使った造形表現」 素材についての研究と実践 (演習)	事前学習	教科書 pp. 73-75 を読む。 空き容器など、身近にある素材に目を向けて、造形材料の可能性について考える。身近な廃材を活用した作品製作に向けて、各自の題材に関する資料を収集する。
		事後学習	廃材を活用した製作活動を振り返る。他の学生が使用していた素材にも着目し、内容をまとめる。また今回の製作活動を振り返り記録する。
第 1 2 回	凸版画 I 「年賀状の製作」 (講義+演習)	事前学習	自分の作品の特徴を生かし、今回の版画表現のアイデアスケッチを行う。
		事後学習	版画表現を行ってみて、特に印象に残ったことについて、感じたこと、考えたことを自分のスケッチブックにまとめる。
第 1 3 回	凸版画 II 「年賀状の製作」 (演習)	事前学習	教科書 pp. 84-86 を読む。 今回の版画表現について、自分らしく仕上げていくイメージを持つ。
		事後学習	これまでの製作活動を振り返り、自身の造形表現の長所について自分のスケッチブックにまとめる。
第 1 4 回	◇ 素材研究 I 素材研究を通した任意の衣装の製作と発表 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 86-87 を読む。 製作・発表に向けて、スケッチブックやノートにアイデアをまとめ、グループ内での意見交換に積極的に参加する。任意の衣装製作に関する構想を練り、各自資料を収集する。
		事後学習	第 15 回の発表について構想をまとめる。また鑑賞者の視点において、これまでの様々な発表において特に印象に残ったものを取り上げ、考えたこと・感じたことをノートに記す。また今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第 1 5 回	◇ 素材研究 II 素材研究を通した任意の衣装の製作と発表 (演習+発表)	事前学習	作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。自身の作品を簡潔に伝えるためのキャッチフレーズを考える。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、特に印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、自分の作品の良い特徴を再度確認し認識する。図画工作IIの製作活動を振り返り、自分の作品やノートをまとめる。